

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730766

研究課題名(和文)ロシア帝国ムスリム地域におけるジャディード運動：教育改革・地方自治・ネットワーク

研究課題名(英文)Jadid movement among Muslims in the Russian Empire

研究代表者

渡辺 賢一郎(Watanabe, Kenichiro)

東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員

研究者番号：30328637

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は19世紀後半から20世紀初頭にかけてロシア帝国のムスリムによってなされた教育改革運動ジャディード運動に注目し、その実態解明および自治をめぐる改革運動の思想および実践と関連させて明らかにすることある。海外調査や国内の文献調査の結果、ジャディード運動は母語教育に大きな比重をおいていたこと、b上層志向を持つ保護者の動機づけ、c教育改革運動と地方自治の双方を接続して理解していたこと、d非ロシア人・非正教徒どうしの教育改革と地方自治をめぐる相互交流があったこと、eロシアの同化政策や西欧の帝国主義政策ならびに東アジア世界の成長などをふまえた人材育成を模索していたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine the educational reform movement for the Muslims of the Russian Empire at the late 19th and early 20th centuries which is called Jadidism. As a result of investigation of documents, this study project illustrate as follows. (a)Jadids emphasized education by pupil's native language. (b) The parents were motivated by a desire for improvement. (c) Gasprinskii linked his educational reform with local administration, especially Crimea region, Volga region, Central Asia and so on. (d) Jadid's reform movement related to other educational reforms by various ethnic groups under Russian Empire. (e) Jadids understood and analyzed their geopolitical circumstances and looked at every possible way to enhance human resources development on the basis of their perspective of the world: Russification, European Imperialism, and rising of China and Japan in East Asia.

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育史

キーワード：イスラーム史 ロシア史 地方自治 帝国史 教育史 社会運動史

1. 研究開始当初の背景

ソ連邦解体後、中央ユーラシアの地政学が注目を集めている。そこで特に大きな比重を占めるのが旧ソ連やロシア帝国の支配下にあったイスラーム教徒(ムスリム)である。彼らは今後、いかなる社会構築の方向性を模索するのだろうか。欧米的な「民主主義」を基盤とした社会構築か、あるいはイスラーム的な「民主主義」を模索するのか。その議論の方向性そのものが今後の中央ユーラシアの地政を左右するだろう。このような議論の中で彼らムスリムが参照するのは、19世紀後半に彼らの先達たちが抱えていた同様の問題群である。ロシア帝国は、ロシア語教育とロシア正教への改宗を二本柱とした同化政策を、ムスリムなどの被支配民族に行った。一方、「進歩」などの西洋近代の価値観が、出版物などを媒体として流入された。中国の人口増大が中央ユーラシアに与える政治的影響が議論された。イスラーム本来の価値観も注目された。彼らは、あるべき社会の方向性をめぐって議論し、様々な模索を行った。

社会構築をめぐる方向性の差異が表出するのが、児童・青少年に対する教育という「場」である。研究代表者は、科学研究費の課題「ロシア帝国ムスリム地域における教育改革運動：「新方式」教育の思想と実践」(H19-21)の研究代表者を務め、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ロシア帝国のムスリムによってなされた教育改革運動の分析を行った。特に、クリミア出身のガスプリンスキー(1851-1914)がムスリム伝統の教育方法を批判して創められた「新方式 usuli-jadid」といわれる新しい学校について、教育思想および実践の両面から分析した。

この研究課題を遂行し、現地調査や史資料を用いた文献調査をおこなう中で、新たに立ち現れたのが、教育に係るトランス「ナショナル」な問題群である。彼らの教育改革は、その教育内容において従来強調されるようなトルコ「民族」の枠組み内にとどまるものではなく、また普及地域においてロシア帝国という「国家」の枠組み内にとどまるものではないことが少なからず明らかになった。さらにはムスリムであること自体も超えていく運動の実践も見られた。また、その思想や実践普及をめぐるメディアの一つとなった『翻訳者』という新聞は(1883年創刊)、当時中央ユーラシア全域で5000部の発行部数を誇ったが、その紙面はロシア語とトルコ語の二言語併記を基本としつつ、さらにアラビア語・フランス語・ペルシア語などの諸言語も多く使用されており、マルチリンガルなものであった。ある特定の民族や国家、国民概念、さらには宗教や言語を超えて、当時の中央ユーラシアの地政学的環境に現実的に対処するために、ガスプリンスキーらは様々な教育や社会のあり方を模索した。これらが研究の背景となる。

2. 研究の目的

教育改革運動が模索したのは、あるべき人材育成の様々な可能性である。当然ながらこの問題意識は教育改革運動が行われた様々な地域の「政治」のあり方をめぐる思想や実践と、明確に接続されるはずである。たとえばロシア帝国内における地方自治の権限の問題、さらには行政的な自治とは別に文化的自治をどの程度設定するのかといったことをめぐる政治思想や政治改革運動を分析することは、教育改革とともに大きな研究意義をもつ。また、ロシア帝国を超え、トルコ民族を超え、またイスラームや個別の使用言語という枠組みをも超えて模索された、中央ユーラシア諸地域の教育と自治、それぞれを結ぶネットワークのあり方、またそれを支えた新聞などのメディアのあり方をめぐる思想や実践は分析対象として大きな意味をもつはずである。

そこで、本研究計画は、これまでの研究代表者による研究経過、および近年の研究動向を踏まえ、これを上記の視点から発展させることで、19世紀後半に行われた中央ユーラシアにおける「ジャディード運動」と総称される教育改革運動を、自治をめぐる改革運動の思想および実践と関連させて深く分析することを目的とする。

3. 研究の方法

中央ユーラシアにおける「ジャディード運動」と総称される教育改革運動について、教育思想ならびに現場での実践、さらに教育と地方自治について、次のa~fの視点から明らかにする。

- a) ムスリムの学校であるメクテブ(初等教育)とメドレセ(高等教育)について、教科や教育内容をいかに設定し実行したのか明らかにする。以前採択された科学研究費の課題「ロシア帝国ムスリム地域における教育改革運動：「新方式」教育の思想と実践」(H19-21)において課題として残したものが、初等教育の具体的な実践についての把握である。初等教育の実践について丹念に文書調査する。
- b) 卒業後の進路について、「新方式」の教育者および保護者たちがいかなる関心をはらっていたのか、史料より読み解く。
- c) ガスプリンスキーは、従来思想家としての面が強調されてきたが、実際には教育改革運動にみられるように社会改革運動を実際に主導した。「ジャディード運動」の代表者である彼が、その教育改革運動と実際の地方自治の双方をどのように接続したのか、現地史料などから確認する。
- d) ロシア帝国の統治下において、ロシアの同化政策のなかにおいて、非ロシア人、非正教徒である中央ユーラシアの諸民族はいか

に現実的な教育改革および自治の方向性を模索したのか。また中央政府への請願、交渉はいかになされ、どのような成果をあげたのか。ジャディード運動を19世紀後半から20世紀初頭にかけてなされた中央ユーラシアの社会運動と比較する視座から、資料収集し、分析する。

e) 「ジャディード運動」推進者たちが、自らが置かれていた地政学的状況をいかに認識し、教育改革や人材育成の必要性をどう考察していたのか整理する。それは、彼らが国家・民族・宗教を超えて、中央ユーラシアにおけるゆるやかな連帯を志向する社会構築を目指した、大きな動機づけであったはずである。

f) 教育改革思想や実践を伝達する主要なメディアとなった新聞『翻訳者』、および同種の新聞の、購読者数や購読者層、地域的拡大について、基本的データを確認する。研究代表者はこれまでもその情報整理を行ってきたが、さらに最新のロシア、ウクライナ、ウズベキスタンなどにおいて出されつつある研究を反映させ、より正確な実態把握に努める。

こうした研究課題に実証的に接近するため、まず関係資料の所蔵機関に出張して、資料調査・収集をすすめた。初年度はトルコ、ルーマニア、ブルガリアおよびギリシア、二年度はウズベキスタン、最終年度はトルコ、ウクライナ、ポーランドである。各所蔵機関では、(1)ガスプリンスキーによって発行された定期刊行物『翻訳者』の全紙面の収集、(2)クリミア、トルコなどの地域において発行された定期刊行物、(3)ガスプリンスキーの著作、(4)帝政ロシア政府による教育や自治に関する公文書、(5)教育改革および自治運動に関する請願書などである。コピー複写、写真撮影などにより収集し、一部についてはその場で解読し、パソコンへの基礎データの入力等を行った。

これらの資料、およびジャディード運動関係の資料を用いによって、研究課題の解明にあたった。デジタルデータの整理については、アルバイトを雇用し、下処理を担当してもらった。さらに、国内の図書館における調査を通じ、当時のユーラシア大陸における諸民族の支配被支配の関係および教育や自治のあり方について確認することで、ジャディード運動がめざした方向の実現性の問題について考察した。

4. 研究成果

収集資料を分析し課題の解明をすすめた結果、次の(a)から(f)の視点からそれぞれ明らかにした。

a) メクテブ(初等教育)において主たる教育科目として設定されたのが、母語の教育である。「母語」とは、その民族や地域ごとに

当然異なるものである。従来の研究では、ジャディード運動において重視された「母語」はガスプリンスキーが志向した「共通トルコ語」を指すと考えられてきたが、そうではなく、ロシア帝国にとどまらず、広く中央ユーラシア地域において、人々がそれぞれ異なっているにもかかわらず、それぞれの母語を初等教育において習得する必要性が考慮され、また実践されたことが明らかになった。

b) 学校教育の改革を訴えたとしても、実際には保護者たちの理解が得られなければ、メクテブ、メドレセともに、児童や青少年が入学することはない。対立的に存在する各種の学校から選択する際、保護者にとって卒業後の進路が大きな比重を占めるはずである。ジャディード運動においては、この点がどのように社会に評価されたのだろうか。そもそも国民国家形成における一制度として各国で義務教育が導入されるまでの学校教育は、当該社会において一定以上の階層の子弟が通うものである。史料的な限界もあるが、ジャディード運動の思想を広める媒体であり、かつ読者からの声を紙面に反映させるインタラクティブなメディア『翻訳者』の記事などから、やはり商人層など社会の一定以上の階層の子弟が入学していることが確認された。また、そうである以上、子弟の親たちには一定の上層志向をみてとることができる。国内ではモスクワ、国外ではイスタンブールや西欧の諸都市への留学の関心を示す例もみられたが、そこまですではなくとも、母語教育のあとはロシア語その他の外国語を相応の高等教育で習得し、将来的な職業選択の幅を確保しようとする親の動機づけが、ジャディード教育に対しても向けられ、また教師たちもそれを理解していたことが確認された。

c) ジャディード運動の創始者であるガスプリンスキーはロシア帝国領クリミア半島のバフチサライの市長として活動した。その行政面での実績について、史料的な限界があるものの、確認・分析した。ジャディード運動の代表者である彼が、その教育改革運動と実際の地方自治の双方を接続して理解していたことが確認された。特にバフチサライの事例の解明から、教育改革運動に賛同するオスマン帝国やインド、エジプトなどの各地方自治体との、国家を超えたゆるやかな政治的連帯を模索した教育と自治のあり方が明らかになった。

d) ムスリムだけでなく、ロシア帝国の統治下にある非ロシア人・非正教徒もまた、それぞれの立場から教育改革および自治の方向性を模索していたことは、すでに先行研究の二次文献で知るところではあった。こうした教育改革のあり方についての比較検討をおこないつつ、個別になされていた非ロシア人・非正教徒の運動が、現場において相互に連結している可能性を考え、海外における文献調査をおこなった。その結果、中央アジアやオスマン帝国などトルコ系同士のネット

ワークはもちろんであるが、ユダヤやポーランド、また黒海西岸地域においても、学校教育の改革をめくって相互の交流があったことが確認された。このような交流は地方自治のネットワークとかかわりをもつと考えられるが、現地調査したいいくつかの個別ケースの解明にとどまり、今後の課題として残された。いずれにしても、国家という枠組みを超えた自治体や教育者同士の交流が、確認された。

e) 「ジャディード運動」推進者たちは、19世紀の後半から20世紀の初頭にかけて、自らが置かれていた地政学的状況を、様々な面から複層的に理解していたことが確認された。具体的には、ロシア帝国による同化政策、イギリスなどの帝国主義政策、オスマン帝国スルタンによるイスラーム社会の「近代化」政策、中国および日本など東アジア世界の人口増大と経済圏の変容などの諸要素について認識を有し、そうした認識に基づいた人材育成の可能性および必要性を模索していたことを分析した。

f) 教育改革思想や実践を伝達する主要なメディアとなった新聞『翻訳者』、および同種の新聞の、購読者数や購読者層、地域的拡大について、基本的データを確認する作業を、前研究課題に引き続いて行い、より正確な実態把握に努めた。

以上の作業から、ジャディード運動は、中央ユーラシアの様々な地政学的情勢におかれた諸民族の様々な改革運動と相互に影響を与えたものであることが確認された。またそれは地方自治のネットワークとも関連し合っていることが確認された。

本研究の成果報告の一部として、研究会での報告を行ったが、今後学術雑誌に投稿し発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

渡辺賢一郎「ジャディード運動と地方自治」ロシア帝国ムスリム地域におけるジャディード運動研究会、2013年11月27日、東洋大学人間科学総合研究所

渡辺賢一郎「ロシア・ムスリム地域の教育改革」ロシア帝国ムスリム地域におけるジャディード運動研究会、2013年6月26日、東洋大学人間科学総合研究所

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 賢一郎 (WATANABE, Kenichiro)
東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員
研究者番号：30328637